

日本小児感染症学会若手会員研修会第6回瀬戸内セミナー

ジュニアチューターを経験して

竹内典子*

第3回の安曇野セミナーに参加した縁もあってか、今回、瀬戸内セミナーでのジュニアチューターにお声がけをいただいた。自分のときを振り返ると、チューターはベテランの先生方ばかりであり、自分が適任かどうか甚だ疑問であったが、今回は初めてのジュニアチューター制度の導入ということで、学会の若手育成の熱意を感じ、引き受けさせていただくことにした。

グループメンバーが決定してからセミナーまで1カ月半しかなく、グループワークが思うように進行しないこともあり、終始やきもきしていた。自分にとって初めての立場であり、どこまで自分が介入すべきか、常に悩みながらの対応であった。メール上でのディスカッションではっきりした方向性が決まらないままセミナーを迎え、自分

の力不足を感じたが、セミナー当日にグループディスカッションをまとめあげたのは、メンバー一人ひとりのポテンシャルと、顔を合わせたことによって生まれたコミュニケーションおよび団結力によるものと思う。学会誌に投稿する論文作成の過程では、セミナー終了後の約1カ月、グループでのメールも濃いものとなっていた。

今回初めてジュニアチューターとして参加したが、suggestionするという立場である以上、自分自身も多くの論文を読み、大変勉強になった。限られた時間のなかで大変ではあったが、有意義な経験であった。このような機会をくださった学会、先生方、そして一緒に学んだグループメンバーにも感謝したい。

* * *

* 千葉大学真菌医学研究センター感染症制御分野